

ご担当者各位

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2017 開幕！ オープニング・セレモニー＆『ANIMAを撃て！』 劇中でコンテンポラリーダンスとドラムのセッションを 披露した服部彩加、小柳友と堀江貴大監督が登壇

平素よりお世話になっております。

世界に先駆けてデジタルシネマにフォーカスし、次代を担う若手映像クリエイターの登竜門として2004年にスタートした「SKIPシティ国際Dシネマ映画祭」(主催：埼玉県、川口市ほか)が、本日7月15日(土)、14回目となる開催初日を迎え、国内外からコンペティション部門のノミネート監督や審査員ほかゲストが多数来場してのオープニング・セレモニーを実施。9日間にわたる映画祭が華やかに幕を開けました！

セレモニー後のオープニング上映では、映画祭が主体となり、若手監督を抜擢してプロデュースした『ANIMAを撃て！』をワールド・プレミア上映。上映前には出演の服部彩加、小柳友、堀江貴大監督が登壇しての舞台挨拶を開催しました。

本作は、昨年の本映画祭長編部門にノミネートし、その後劇場公開された『いたくてもいたくても』(16)で注目された堀江貴大監督がオリジナル脚本で手掛け、バレエ団に所属しつつも自分だけの踊りを模索する主人公・果穂と、かつてドラムをやっていたが今は夢を諦めてしまった青年・伊藤がひよんなことからコンビを組み、コンテンポラリーダンスとドラムのセッションに挑む、“ガール・ミーツ・ボーイ”の爽やかな青春映画です。出演は、本作で映画初出演にして主演を務めた新星・服部彩加と、映画から舞台まで幅広く活躍する小柳友がW主演。バレエや競技ダンスの経験を持つ服部彩加と、ドラム経験のある小柳友がそれぞれ見応えのあるダンスとドラムの腕前を披露。黒澤はるか、中村映里子、大鶴義丹らが脇を固めています。



SKIP シティ国際Dシネマ映画祭 2017 は、本日7月15日(土)から23日(日)までの9日間、埼玉県川口市のSKIPシティほかで開催いたします。会期中は長編部門12作品、短編部門12作品、アニメーション部門10作品の、3部門34作品がコンペティション上映され、黒沢 清 長編部門国際審査委員長を中心とした審査員による最終審査を経て、最終日23日に各賞が発表されます。そのほかにも、SKIP シティから羽ばたいた新鋭監督たちの特集「飛翔する監督たち」や話題のVRにスポットをあて、国内外のVR映像を無料で体験できる特別企画「Dシネマ―新たな潮流」など盛りだくさんの内容となっています。

つきましては、オープニング・セレモニー及びオープニング上映『ANIMA を撃て！』舞台挨拶のご報告をお送りさせていただきます。ぜひ本情報を貴媒体にてご紹介くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

主催者コメント

◎上田 清司 埼玉県知事 (SKIPシティ国際映画祭実行委員会 会長)

これまで、若手のクリエイターがこの川口から飛躍的に活躍の場を広げて、その才能を日本で、世界で示している。この SKIP シティ国際 D シネマ映画祭が、若手映像クリエイターの発掘という当初の目的を確実に果たしていると感じている。今年は酷暑ですから、その酷暑を克服するために映画祭に来るという方法もあるのではないかと考えている。これからもより多くの若いクリエイターがこの映画祭から大きく飛躍することを願っている。

◎奥ノ木 信夫 川口市長 (SKIPシティ国際映画祭実行委員会 副会長)

デジタルシネマの未来を切り開いてきた本映画祭も今年で14回。来年は15年目の節目を迎える。今年はその序章となると思っている。また今年からは新たにコンペティション3部門に「観客賞」を新設した。観客の皆さまに投票に参加していただくことによって、映画祭の魅力をより高めていきたいと考えている。

<オープニング上映『ANIMAを撃て!』 舞台挨拶ご報告>

- 日程:7月15日(土) オープニング・セレモニー 14:00~14:55 舞台挨拶 15:05~15:20
- 会場:SKIPシティ 映像ホール (埼玉県川口市上青木3-12-63 4F)
- 登壇者:^{はっとり さいか}服部 彩加(23歳)、^{こやなぎ ゆう}小柳 友(28歳)、^{ほりえ たかひろ}堀江 貴大監督(29歳)

本映画祭でのオープニング上映が、完成後初のお披露目となった本作。

コンテンポラリーダンスという題材を選んだことについて、堀江貴大監督は「言葉ではなく身体で感情を表現することにごく興味があって、まずダンスに興味を持った。なかでもコンテンポラリーダンスはなんでもありというか、表現の幅の広さにごく惹かれて。それからダンスとなにかもう一つ欲しいなとなって、ドラムというのはすごく身体を使う、ということでダンサーとドラマーがユニットを組むという物語が生まれました。」と企画の成り立ちを語ると、今回映画初出演にして初出演を務めた服部彩加は、

「今までまったく演技経験がなかった中で起用していただいて、プレッシャーも感じましたが、堀江監督が私の殻を破るという特訓をたくさんしてくださって、時には監督と振り付けの方と本気の取り組み合いを30分したこともあった。激しすぎて、堀江監督は足の小指にヒビが入ってしまった(笑)」と裏話を明かすと、思わず「そんなこと全然聞いてなかった!現場で話してくれたら良かったのに(笑)」と小柳友が突っ込んで会場の笑いを誘った。

そんな小柳友は元ドラマーという役について「昔ドラムをやっていたので特に練習もせず…」と話し始めると、今度は堀江監督が「うそです!」と突っ込み返す場面も。「コソ練と呼んでいるんですけど、スタジオの店員さんと仲良くなるくらい(練習しました)(笑)。ただ、脚本にも少しだけ参加させてもらって、等身大に近い役柄であまり苦労という感じではなかったですね。ドラムは自分が唯一、一生続けていきたいと思っていたものだったので、それと改めて向き合うというのは考える部分もあった。そんなところが映像に映っていたら嬉しい」と自分自身を投影した役柄への意気込みを語った。

昨年は東京藝術大学大学院の修了制作『いたくても いたくても』で長編部門のノミネート監督として本映画祭に参加し、今回はオープニング作品の監督として舞台に立った感想を聞かれた堀江監督は「去年はコンペだったので、ある種「闘い」というところが頭にあって、あまり覚えてないんですが、今日はこの作品の最初のお客さんになってくれる方々の前に立っているの、まだどんなふうを受けとめられるかわからないのすごく緊張しています。まだどこか完成していないという気持ちがあって、お客さんに見てもらうことで初めて完成するという事は映画を作るときにいつも思うんですが、今日はすごくそれを感じます。」と締めくくった。

『ANIMAを撃て!』は本映画祭でオープニング上映され、今後全国劇場公開を予定している。


『ANIMAを撃て!』 <2017年/日本/78分>

彼のビートが教えてくれた、私だけのステップ。魂の躍動が響き出す!
 クラシックバレエカンパニー「BAN」に所属する果穂は、留学支援のための試験に挑むものの、自分が本当に表現したい踊りを見つけられずにいた。果穂は、ホール職員の伊藤がドラム経験者だったことを知り、コンテンポラリーダンスとドラムのセッションで最終試験に臨むことに決める。

監督:堀江貴大 出演:服部彩加、小柳 友、中村 映里子、黒澤はるか、藤堂海/大鶴義丹

製作:埼玉県/SKIPシティ 彩の国ビジュアルプラザ ©2017 埼玉県/SKIPシティ 彩の国ビジュアルプラザ

<SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2017(第14回)開催概要>

- 会期:2017年7月15日(土)~23日(日)
- 会場:SKIPシティ 映像ホール、多目的ホールほか(川口市上青木3-12-63)
- 主催:埼玉県、川口市、SKIPシティ国際映画祭実行委員会、特定非営利活動法人さいたま映像ボランティアの会
- 公式サイト:www.skipcity-dcf.jp

*本映画祭上映作品の画像、テキスト資料、プレスリリースなどの素材は、【Image.net】でもご提供しております。

(要登録・無料 / www.image.net)

【お問合せ】SKIPシティ国際Dシネマ映画祭事務局 広報:堀切

TEL:048-263-0818 FAX:048-262-5635

E-Mail:press@skipcity-dcf.jp / horikiri@skipcity.com MOBILE:090-4228-2342